

へっぼこ登山隊活動記録

※ スノーシューハイク ※

4月16日気温10度、里は春の霞に包まれ暖かな陽気に天気予報を確認すると夕方までは良さそうなので北大雪のチトカニウシ山を目指しました。



遠軽町	標高	
チトカニウシ山	1445.8 m	
登り	3 : 00	4 : 30
山頂休憩	0 : 05	
下り	1 : 25	

先週巡礼を済ませた薬師山を横目に国道333号線を一路白滝に向かい、丸瀬布の市街を過るとほとんどの車が旭川紋別自動車道に曲がる中を直進し、すれ違う人も車もないまま標高857mの北見峠に到着するとすでに2台の先着があり、後続の隊員を待ちながら準備を整えていると下界よりは涼しいものの風が無く日が射すとジワリと汗が出てきます。

地図と双眼鏡で目標になる電波塔や1258mの尾根、頂上直下のハイマツを確認し、スキーありスノーシューありツボ足ありとバラバラな足回りの隊員5人は一般的な林道には向かわず郡界線に沿って真っ直ぐ電波塔を目指しました。

最初のゆるい登りでメタボ隊員の額からは早くも汗が噴出し、日が高くなるにつれ一枚、また一枚と脱ぎアンダーシャツの夏姿になるころJR石北線のトンネルを交差し、雪庇の大きな割れ目を遠巻きに木立の中を潜り抜け電波塔と反射板がそそり立つ950mの尾根に到着、振り返ると天狗岳と有明山が霞んで見えました。

しばらく緩やかな傾斜の続くシラカバの疎林を進んで急傾斜に変わり始めるあたりが1000m付近、この林より寂しいメタボ隊員の頭からは温泉マークのように湯気が立ち昇り、冷たい風に心地よさを感じながら標高差250m拷問のような急斜面をカメに追い越されそうな足取りで上り詰めると1258mの尾根からは北大雪が一望できるはず、でしたが山並は雲に隠れ冷たい雨がポツポツと落ちてきました。

逸る気持ちを押さえハイマツ帯まで進むと雪解けが進みスノーシューでも埋まる状況にツボ足隊はここで引き返すことになり、先行する若者隊から遠く遅れたメタボ隊員は一人北側の急斜面に回り込み踏跡を進んで行くと早くも若者隊が降りて来たので「撤退」の二文字が頭をよぎりましたが思い直しカメ並みの重い足取りで前進し頂上を踏むことができました。

頂上は気温が下がり冷たい風が強く雨も本格的に降り出し、周囲に霧が立ち込めてきたので早々に退却しハイマツの上を近道しようと試みますが、底が抜けたように腰の辺りまで埋まりあきらめて登りの踏跡を尾根まで戻ると背後には霧が迫り、登りはカメより遅かった「拷問の壁」をウサギ並に滑り降り、雪庇の登り返しで攀りそうな太腿をなだめすかしながら出発地点までたどり着きました。

今回は残念ながら北大雪や天塩の真っ白な山並を拝むことはできませんでしたが日ごろの運動不足解消には十分過ぎる一日でした。

